

# 大阪の概要③

## ■経済

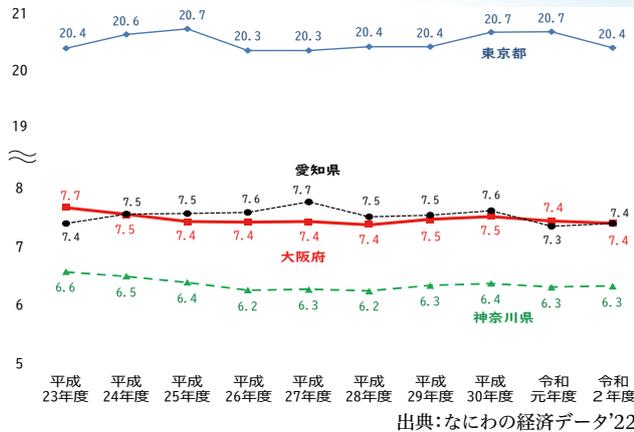
### ●全国で2番目の規模で、バングラデシュと同程度

令和2年度の大阪府の名目府内総生産は39兆7,203億円で、国内総生産の7.4%を占めています。これは、東京都の109兆6,016億円に次いで全国で2番目に多く、バングラデシュに相当する規模です。

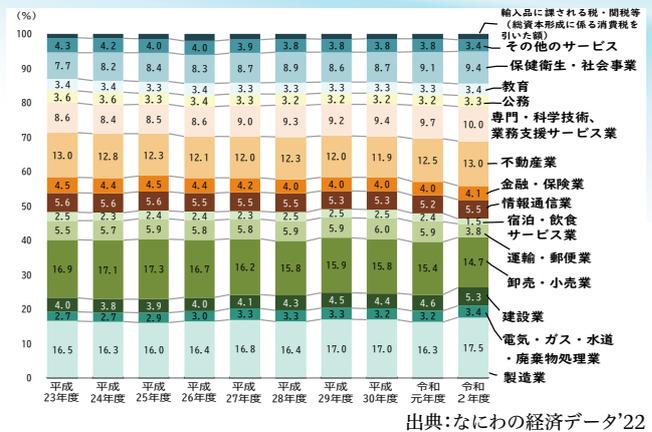
産業大分類別府内総生産(名目:構成比)では製造業が最も高く(17.5%)、2位は卸売・小売業(14.7%)であり、この2分野で3割以上を占めています。

近年では「専門・科学技術、業務支援サービス業」や「保健衛生・社会事業」が伸びており、新たな成長産業として期待されています。

名目都府県内総生産の全国シェアの推移



産業大分類別府内総生産(名目:構成比)の推移(大阪府)



## ■主な産業拠点・集積エリア

### ●ものづくりや医療関連産業の拠点を形成

大阪府内には、従業員4人以上の製造業の事務所が14,412あり、全国シェア8.1%(令和3年経済センサス活動調査)と愛知県に次いで全国2位となっており、日本のものづくりを支えています。

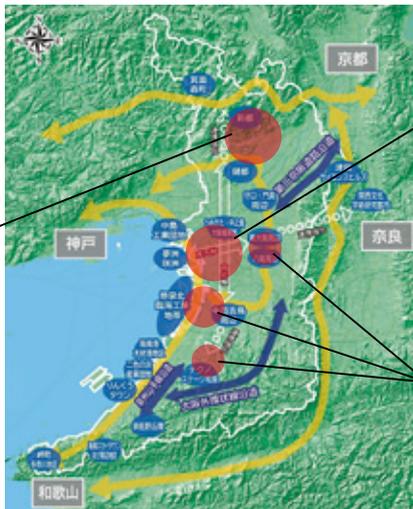
また、大阪を中心として関西には、大学や研究開発拠点が集積し、海外との共同研究を含む産学の連携が進んでおり、ライフサイエンス分野での基礎研究から応用研究、実用化研究を支える世界的な研究も行われています。大阪府では医療機器の生産額が、平成22年以降大きく増加するなど、ライフサイエンス分野の成長が顕著です。

研究開発拠点の彩都、複合医療産業拠点の健都、産学連携で再生医療の産業化などをめざす未来医療国際拠点(愛称:中之島クロス)など、成長産業である健康・医療関連産業、環境・新エネルギー産業や、最先端の研究開発の拠点の形成が進んでいます。

#### ライフサイエンス分野の主な大学・研究機関

##### 【大阪府北部】

- ・彩都(バイオインキュベーション施設)
- ・健都 ・大阪医科大学
- ・大阪歯科大学 ・大阪大学
- ・関西大学 ・関西医科大学
- ・理化学研究所生命機能科学研究センター
- ・医療基盤・健康・栄養研究所医療基盤研究所
- ・国立循環器病研究センター
- ・産業技術総合研究所関西センター
- ・産業技術総合研究所大阪大学連携研究サイト



##### 【大阪市】

- ・健康・医療関連産業のクラスター形成「中之島」
- ・大阪公立大学
- ・日本医療研究開発機構創造戦略部西日本統括部
- ・国立病院機構大阪医療センター
- ・大阪府立病院機構大阪がんセンター

##### 【大阪府南部】

- ・医工連携促進事業・さかい健康医療ものづくり研究会
- ・医工連携プロジェクト創出事業
- ・大阪公立大学
- ・大阪大谷大学
- ・近畿大学
- ・大阪産業技術研究所
- ・京都大学複合原子力科学研究所

出典: 地理院地図を加工して作成

## ■観光

### ●外国人旅行者は回復傾向

令和元年の大阪府の訪日外国人旅行者数は過去最高の1230万人を記録、平成24年から8年連続で増加しました。

その後、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、訪日外国人旅行者数は一時的に大きく落ち込みましたが、令和5年には、国内への訪日外国人旅行者数が新型コロナウイルス流行以前の水準にまで回復してきています。大阪府内にも多くの訪日外国人旅行者が訪れており、以前の活気を取り戻しつつあります。



※令和2～5年は大阪府のデータなし

出典：大阪府府民文化部都市魅力創造局企画・観光課、観光庁訪日外客数

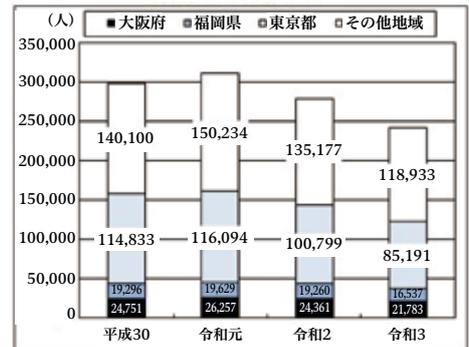
## ■在留外国人

### ●在留外国人は全国3位、留学生は全国2位

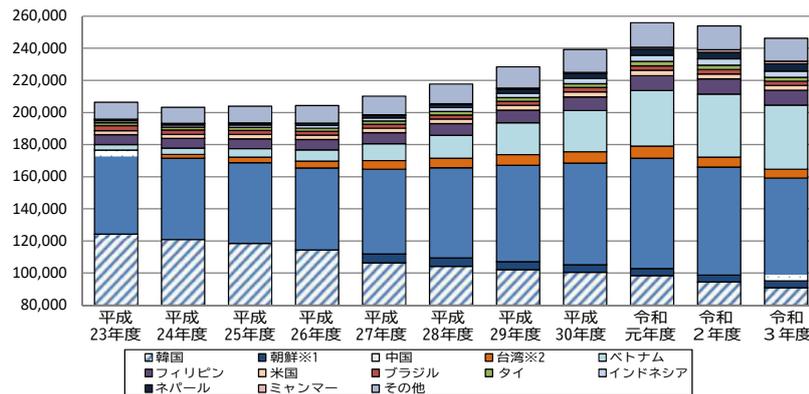
大阪府における在留外国人は、令和3年12月末時点で、246,157人(全国の8.9%)で、東京都、愛知県に次ぐ多さとなっており、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、増加傾向にあります。

特に、留学生数は、令和3年5月1日時点で、21,783人(全国の9%)で、東京都に次ぐ全国2位となっています。出身地域では、中国からの留学生が多く、全体の約43%、次いでベトナム32%、韓国5%、インドネシア4%となっています。

### 外国人留学生数の推移

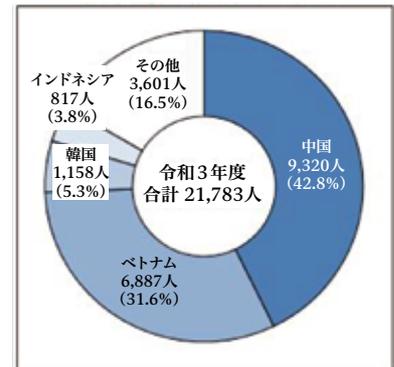


### 大阪府の主な国籍・地域(出身地)別在日外国人数(外国人登録者数)の推移



出典：法務省「在留外国人統計」「登録外国人統計」

### 大阪府の外国人留学生出身地域



(出典：(独)日本学生支援機構「令和3年度外国人留学生在籍状況調査結果」)  
※日本語教育機関における外国人留学生を含む。

## ■国際会議

### ●大阪・関西万博開催やIR開業などに伴う増加に期待

国際会議の開催件数は「G20大阪サミット」等の開催により、令和元年に過去最高の300件となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年は前年比で約9割減の23件となるなど大きく落ち込みましたが、令和4年以降は、入国制限の緩和等により回復傾向にあります。今後、大阪・関西万博開催やIR開業などに伴い、国際会議の増加が期待されます。